大阪あちこち

●泉穴師神社と勅使道

泉大津市は、大阪南部の泉州地域に位置する大阪湾に面した小さな都市です。江戸時代、綿栽培と綿織物業で栄えたこの地域は、明治時代に入ると同じ繊維産業である毛布工業の中心地となりました。その繊維関係業者の方々から崇敬を集めてきたのが、泉大津駅の東方約1.4kmの場所に鎮座する泉穴師神社です。

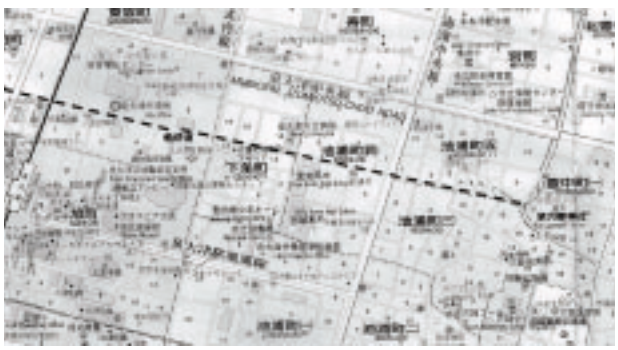
泉穴師神社が繊維関係業者の方々から信仰されている理由は、ここに栲幡千々姫命が祭られているからです。「栲」とはアサや樹皮でとれた繊維を意味し、「幡」は織物のことを意味することから、栲幡千々姫命は織物の神様とされています。

泉穴師神社には栲幡千々姫命とともに、その夫である神天忍穂耳命が本殿に祭られています。このように二神を同時に祭る形態を二神併座といい、本殿はこの形態に沿った「相殿造」とよばれる二棟連結社殿の形式をとっています。本殿が二棟連結であるため、拝殿前の鳥居も二神それぞれを拝することができるよう二基建てられています。このように二基の鳥居が並列しているのは大変珍しく、独特の景観をみせています。

ところで、繊維産業が盛んな港のある地域から、泉穴師神社へ続く道は勅使道とよばれていました。勅使道とは、古代・中世時代において大津が和泉国の中心港であった頃、船でやってきた京都の官人たちが、和泉国の国府があった府中（現在の和泉市府中町）を目指した道でした。かつて都びとが往来したこの道の周辺には、近代に入って毛布などの工場が多く建てられ織機の動く音が一日中聞こえていましたが、現在では工場も少なくなりひっそりとしたたたずまいをみせています。

泉穴師神社本殿

『和泉名所図会』に描かれている泉穴師神社



▼お問い合わせ先▼
泉大津市教育委員会事務局生涯学習課
TEL　0725−33−1131